

がん教育研究センター

1 構 成 員

	平成21年3月31日現在
教授	1人
准教授	0人
講師（うち病院籍）	0人（0人）
助教（うち病院籍）	0人（0人）
助手（うち病院籍）	0人（0人）
特任教員（特任教授，特任准教授，特任助教を含む）	3人
医員	0人
研修医	0人
特任研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	4人（1人）
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技術職員（教務職員を含む）	0人
その他（技術補佐員等）	1人
合 計	9人

2 教員の異動状況

大西 一功（教授）（H5. 7. 1～）(H19. 10. 1～現職，腫瘍センター長，化学療法部長併任)

深澤 貴子（特任助教）（H19. 10. 1～現職）

小野 孝明（特任助教）（H19. 10. 1～現職）

堀 雄史（特任助教）（H18. 10. 1～H19. 9. 30薬剤部主任）（H19. 10. 1～現職）

3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成20年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	6編（0編）
そのインパクトファクターの合計	13.851
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	0編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	5編（5編）
そのインパクトファクターの合計	0
(4) 著書数（うち邦文のもの）	0編（0編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0編（0編）
そのインパクトファクターの合計	0

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. Nakamura S, Okinaka K, Hirano I, Ono T, Sugimoto Y, Shigeno K, Fujisawa S, Shinjo K, Ohnishi K: KIS induces proliferation and the cell cycle progression through the phosphorylation of p27Kip1 in leukemia cells. Leuk Res 32: 1358-1365, 2008.
2. Nakamura S, Okinaka K, Hirano I, Ono T, Sugimoto Y, Shigeno K, Fujisawa S, Shinjo K, Ohnishi K: KIS induces proliferation and the cell cycle progression through the phosphorylation of p27Kip1 in leukemia cells. Leuk Res 32: 1358-1365, 2008.

インパクトファクターの小計 [5.122]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Fujisawa S, Nakamura S, Naito K, Kobayashi M, Ohnishi K: A variant transcript, e1a3, of the minor BCR-ABL fusion gene in acute lymphoblastic leukemia: case report and review of the literature. Int J Hematol 87: 184-188, 2008.
2. Ishizawa K, Ohnishi K: Safety and efficacy of rasburicase (SR29142) in a Japanese phase II study. Cancer Sci 100: 357-62, 2008.
3. Kawasaki H, Shigeno K, Ohnishi K, Tsuchida T, Miura K, Kato T, Kosugi I, Tsutsui Y: A case of primary cutaneous natural killer/T-cell lymphoma, nasal type, directly invading to the heart. Leuk Lymphoma 49: 1008-11, 2008.
4. Sugimoto Y, Nakamura S, Okinaka K, Hirano I, Ono T, Shigeno K, Shinjo K, Ohnishi K: HOXA10 expression induced by Abl kinase inhibitors enhanced apoptosis through PI3K pathway in CML cells. Leuk Res 32: 962-971, 2008.

インパクトファクターの小計 [8.729]

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 大西一功：Ph陽性慢性骨髄性白血病の治療指針. Annual Review血液. 101-110, 2008.
2. 大西一功：慢性骨髄性白血病の治療プロトコール. 白血病治療マニュアル. 69-73, 2008.

インパクトファクターの小計 [0.00]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. 冲中敬二, 大西一功：造血器疾患治療の新しい潮流 9 慢性骨髄性白血病の治療. Mebio 25 (2), 2008.
2. 冲中敬二, 大西一功：分子標的治療薬の基礎と臨床 分子標的治療薬を中心とした慢性骨髄性白血病治療の現状と将来. 成人病と生活習慣38：695-701, 2008.
3. 重野一幸, 大西一功：病気と薬パーフェクトガイド2008 "骨髄性白血病". 薬局59 (4)：1499-1509, 2008.

4 特許等の出願状況

	平成20年度
特許取得数（出願中含む）	0件

5 医学研究費取得状況

	平成20年度
(1) 文部科学省科学研究費	0件（ 0万円）
(2) 厚生科学研究費	2件（2,662.5万円）
(3) 他政府機関による研究助成	0件（ 0万円）
(4) 財団助成金	0件（ 0万円）
(5) 受託研究または共同研究	0件（ 0万円）
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	0件（ 0万円）

(2) 厚生科学研究費

大西一功（代表者）ががん臨床研究事業 難治性白血病に対する標準的治療法の確立に関する研究 2,502.5万円（新規）

大西一功（分担者）ががん研究助成金計画研究 成人難治性白血病の分子生物学的特徴に基づく研究 160万円（継続）

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	1件	0件
(2) シンポジウム発表数	0件	0件
(3) 学会座長回数	0件	2件
(4) 学会開催回数	0件	0件
(5) 学会役員等回数	0件	3件
(6) 一般演題発表数	1件	

(1) 国際学会等開催・参加

2) 国際学会・会議等における基調講演・招待講演

Ohnishi K. Current clinical studies of CML treatment in JASG in 2008. 17th International CML Workshop Heidelberg-European LeukemiaNet. Heidelberg; 2008.7.5

5) 一般発表

ポスター発表

Hirano I, Nakamura S, Yokota D, Ono T, Shigeno K, Fujisawa S, Shinjo K, Ohnishi K. Bcr-Abl promotes CML cell proliferation through the suppression of PHLPP expression. American Society of Hematology. 50th annual meeting, December 6-9, 2008. San Francisco, California,

USA.

(2) 国内学会の開催・参加

4) 座長をした学会名

大西一功：CMLの治療. 第70回日本血液学会総会. 京都；2008. 10. 12.

大西一功：教育講演 抗がん剤とABCトランスポーター. 第7回日本臨床腫瘍学会. 名古屋；
2009. 3. 20.

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

大西一功 日本血液学会理事

大西一功 日本血液学会評議員

大西一功 日本網内系学会評議員

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0件	0件

9 共同研究の実施状況

	平成20年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	2件
(3) 学内共同研究	0件

(2) 国内共同研究

JALSGにおける多施設共同臨床試験と随伴研究

JCOGにおける多施設共同臨床試験

10 産学共同研究

	平成20年度
産学共同研究	0件